

<当社に期待するサステナブル・環境経営への取り組み> (1/2)

	ご意見	J-POWERグループの取り組み
サステナブル・環境経営		
	サステナビリティとは?(何を求めているのか?求めたいのか?)万人がひと目で理解できる様な「タイトル」にしてもらいたい。 タイトル名が長く、わかりにくいと思います。	2008年版では、わたしたちのめざすものがエネルギーの供給と環境保全の両立であることを明らかにするため、「エネルギーと環境の共生をめざして」という副題をつけました。
	エネルギーの安定供給はもちろんであるが環境に十分配慮するものでなければならない。そういう中で御社の取組がさらに充実するように期待しています。	今後ともエネルギーと環境の共生をめざして取り組んでまいります。
	石炭のガス化で効率を上げるEAGLEプロジェクトやCO2回収・貯留技術については、大変興味持って読んだが、一般の人には難解な技術解説で理解しづらい。もう少し易しいレベルで図etc利用して説明して欲しい。	
	CO2について難しい言語が数多かったので、もっとわかりやすくレポートを開示してほしい。	
	一般の方には少し難しいかもしれません。	
	記述されていることが専門知識がないと理解しにくいことが多かったので、誰でもわかりやすい文章で表現されていれば多くの方が読んでくれると思う。	今後ともより分かりやすい記述を心がけたいと思います。 なお、地球温暖化問題とその対策(CO2対策)、石炭利用技術など環境の取り組みについて、より簡潔に説明した概要版「エネルギーと環境の共生をめざして」を作成していますのでご覧いただければ幸いです。
	本書の目的を明確にすべき。市民を対象にしているのであれば分かり難いし、内容が多過ぎる。	
	新興国に技術支援の強化の予定はありますか。	海外コンサルティング事業を通じて環境技術などの移転・普及を図っています。取り組み事例は2008年版P52-53をご参照下さい。
	大間原子力発電所沸騰水型を選んだのは何故でしょうか。	大間原子力発電所計画は、原子力委員会決定に基づくナショナルプロジェクトとしてATR実証炉の建設計画でスタートしました。その後、経済性等の理由から、原子力委員会決定(平成7年)において、ATR実証炉計画の中止及びフルMOX-ABWR(改良型沸騰水型原子炉)を代替計画として当社が実施することが適当であるとされました。 その理由としては、柔軟なMOX燃料利用が可能なこと、当時建設中であった東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所の基本仕様の変更をせず実施可能なこと等が挙げられています。 この決定に基づき、当社が責任を持って計画遂行するものであります。
	高レベル放射性廃棄物の最終処分場はどの様に考えるのか。	再処理後に生ずる高レベル放射性廃棄物は、原子力発電環境整備機構(NUMO)が最終処分を行うこととなっています。 NUMOでは、平成14年12月から概要調査を行う候補地の公募を行っており、平成40年代前後に最終処分地の選定を行い、平成40年代後半から最終処分を開始することとしています。
	大間原子力発電所の安全性について、市民が理解・納得出来る分かり易い報告を載せて欲しい。	原子力発電所の安全性については、大間原子力発電所が5月27日に着工したこともあり、2008年版のP7-8で「安全で持続可能な原子力利用への取り組み」として特集化しました。ご覧頂ければ幸いです。
	今回の地震の様に、万一の対策をより万全なものにして欲しい。	
	危機管理を更に充実させるべき。	昨今の地震・異常気象による水害等の自然災害を踏まえ、更なる危機管理体制の充実を図っております。詳しくは2008年版P20をご覧ください。
	消費者との交流も(一般対象応募等)必要と思います。	卸電力会社である私たちは消費者の方と直接接点をもっていないため、今後の課題のひとつであると認識しております。 なお、発電所見学会やエネルギー・環境体験学習ツアーなどHPでご案内をしておりますのでご参照下さい。
	環境会計の紙幅を拡大し、一層の充実が必要なことだと思います。	環境省の環境会計ガイドラインなどを参考に更に環境会計の充実に取り組んでまいります。
	目標と達成度を一年毎により明確に細かく定めて公表をするように望みます。	2008年版では、環境目標について目標、実績およびその評価を一覧化し掲載しました(P27-28)。

＜当社に期待するサステナブル・環境経営への取り組み＞（2/2）

	ご意見	J-POWERグループの取り組み
地球環境問題への取り組み		
	「電力は今後全て原子力発電におきかわるのだろう、環境の為にもしか・・・」と考えていたが本レポートによりJ-POWERの石炭利用を重視し、技術力、開発力をもって環境をも守る姿勢がよく理解できた。今後ぜひ、海外への技術提供に力を入れて下さい。石炭利用に期待がふくらむ新しい情報のつまった良いレポートでした。	2008年版では、石炭利用の意義と地球温暖化対策の両立について「エネルギー利用効率の向上と海外への技術移転」、「CO2ゼロエミッションの取り組み」という視点から特集化しています。是非ご覧頂き、ご意見・ご批評を賜れば幸いです。
	日本の発電において石炭火力発電が30%を占め、石油による発電よりも電力量が多く、地球温暖化対策の上で重要な影響があることを知りました。また、御社の石炭火力発電技術の中で環境負荷低減への取り組み事例と効果を更に強調すると、地球環境問題への積極的な取り組みへの理解が深まると思います。	
	さらなる石炭火力の効率化・省エネ化と省エネルギー事業の推進を期待する。	
	J-POWERの石炭火力発電技術の中で環境負荷低減への取り組み事例と効果を更に強調すると、地球環境問題への積極的な取り組みへの理解が深まると思います。	2008年版では、技術革新(イノベーション)をキーワードに、特集をはじめ取り組み事例を数多く報告しておりますので、ご覧いただければ幸いです。
	CO2分離回収・貯留技術に更に取り組みJパワーの総合力を発揮してほしい。	
	地球温暖化対策について早急な成果をあげてほしい。	
	J-POWERグループの強みを生かし中国やインドの環境改善へ取り組み、地球環境の改善とグループへのメリットを報告して欲しい。	インド・中国の環境改善への取り組みは、到底私たちだけで進められるものではありませんが、国際的な取り組みの中で私たちの取り組みについては、2008年版P13-16特集3「石炭利用と地球温暖化対策の両立」に整理していますので、是非ご覧頂き、ご意見・ご批評を賜れば幸いです。
	重点を絞って新技術開発を進めてほしい。	革新的な石炭利用技術を重点テーマに取り組みを進めています。2008年版P13-16特集3「石炭利用と地球温暖化対策の両立」に取り組みを紹介しておりますのでご覧いただければ幸いです。
	地熱発電の活用についてどのように考えるか。	CO2排出のほとんどない電源の一つである地熱発電については、既設発電所の安定運転のほか、国内外における新規開発に向けた活動を行なっています。
透明性・信頼性への取り組み		
	発電設備にかかわる反コンプライアンス、環境法令に抵触する事案はトップに書くべき。	コンプライアンスに反する事案については透明性・信頼性確保の観点から必須の報告事項であると認識し、報告に務めております。事案に応じて掲載箇所を検討しておりますのでご理解をお願い致します。
	取り組みについて情報発信方法の充実を。	今後とも取り組みを深めるとともに、情報発信の充実に努めてまいります。
社会面の取り組み		
	企業としての教育にかかわれる可能性についての言及が欲しい。	2008年版では、P59J-POWERグループの社会貢献の中で、「エネルギーと環境の共生」を目指す視点から、私たちの事業資産を活かし、エネルギーと環境の学習支援活動を行なっていることを紹介しています。
	国民の不安がないよう安全第一をお願いします。	安全・安心を大前提に事業活動に取り組んでまいります。特に原子力の安全性については、2008年度版で特集しましたのでご覧いただければ幸いです(P8)。